



ジュゴン Vol.94

ちゃんぷるニュース

 **SDCC 2017. 9. 26**
Save the Dugong Campaign Center

CONTENTS

- 2/3 情勢・控訴審でジュゴン訴訟勝利
- 沖縄県への要請書提出
- 4/5 9・3世界遺産シンポ報告
- シンポ来賓挨拶要旨
- 6/7 8・12 沖縄県民大会
- わんさか通信★ジュゴンのわ
- コラム「山原はザンのふるさと」



辺野古では、埋め立て工事ができないようにと、朝早くから座り込みをしています。連日の土砂搬入ですが、諦めないことが沖縄のDNA。

今、「米国が最も恐れた男・その名はカメジロー」の映画が評判になっています。カメジローが好んで色紙に書いた言葉「不屈」。「不屈」は沖縄のDNA。そのDNAは、翁長沖縄知事や稲嶺名護市長はじめ沖縄選出の国会議員や、有名無名の多くのウチナーンチュの中にも脈々と受け継がれています。

戦後ずっと厳しい闘いを強いられてきた沖縄ですが、ドイツの国際平和団体（IPB）からオール沖縄会議に平和賞の授与が決まりました。授賞理由は「軍事化や米軍基地に反対する非暴力の取組」で、「決して諦めずに闘いを続け、さまざまな行動を起こしてきた過去の努力を認め現在の運動を支援したい」としています。世界は見ていますのす！

ジュゴン訴訟もあきらめずに継続したことが新たな道を切り開いて明るい希望が見えてきています。そこにも「不屈」のDNA。

不屈のDNA

辺野古や高江で体を張って座り込んでいる人達と、本土にいる私達も気持ちは一緒。辺野古に「ダンブが何台、土砂を運んだ」という報道に、鼓動が激しくなります。何とかしなければ・・・と、焦りを感じますが、大事なものは、自分のいる場所で活動すること。特に政治・経済の中核である首都圏にいる私たちの運動は、辺野古や高江の集会やデモ、上映会や写真展、警視庁機動隊の沖縄派遣住民訴訟の闘い、東京M×テレビや辺野古工事の企業への抗議など、多岐に渡っています。本土での運動は、沖縄を後押しする大きな力で大変重要です。私達の中にも「不屈」はあるはず。

基地問題が沖縄だけの問題ではなく全国民に関わることだということを一人でも多くの人に分かってもらうためにも、本土の各地で、「不屈」の精神で沖縄支援をしていきましょう。辺野古の海はジュゴンの棲む生物多様性に優れた、世界的にも貴重な海だということを、更にアピールしていきましょう。「不屈」のDNAを広めましょう。
(首都圏 宮城韶子)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp

炎天下、45000 人も参加者が集まった
沖縄の8・12県民大会。
家族連れの姿も多く見られた (6面)



世界は見ています — ユネスコ/IUCN調査団が沖縄に
9・3シンポジウムと海防演習 恒コンサート
やんばるの森と辺野古の海を守ろう



盛会となったの9・3沖縄シンポ (4&5面)

米ジュゴン訴訟 控訴審判決と今後の展望



2017年8月21日、米国第9巡回連邦控訴裁判所は、沖縄ジュゴンの未来と辺野古新基地建設の阻止に向けて、希望を開く判断を下した。2015年2月の連邦地裁の判決を覆し、地裁への差し戻しを命じたのである。

ジュゴン訴訟は2003年に、沖縄、日本、米国の個人と団体が米国の国家歴史保存法に基づき、国防総省を被告としてサンフランシスコ連邦地裁で提訴して始まった。2008年1月には地裁が、国防総省は同法に違反しているとし、基地建設によるジュゴンへの影響を「考慮すること」を国防総省に命じた。しかしその後、考慮の方法で原告・被告が合意に至らず、日本国内の政治問題等もあり、裁判自体は2012年に休止となる。

そして2013年12月、仲井眞弘多前沖縄県知事が基地建設のための埋立てを承認すると、2014年4月に国防総省が「ジュゴンに影響はない」という報告書を提出。日米での手続きがクリアーされたとして、2014年7月に工事（ボーリング調査）が着手される。

その後原告は、国防総省が同法を遵守しなかったと訴え、地裁に違法確認と工事差し止めを申立てるが、2015年2月に地裁は原告の申立てを却下する。1)工事はすでに着手されており、違法を確認したとしても、原告の救済にはつながらない、2) 日米間の防衛・外交に関わる建設工事を差し止め

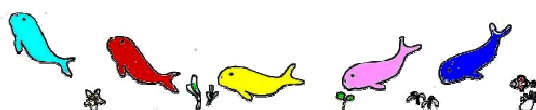
ることは「政治問題」となり、司法は憲法上「政治問題」には関われない、等の理由で原告が裁判を続ける資格（原告適格）を地裁は認めなかったのだ。

今回の控訴審判決は一転してその原告適格を認めるものであった。1) 工事は中止や再開を繰り返しており、また基地の運用はこれからであり、違法確認は原告の救済につながる、2) 原告が求めているのは NHPA 遵守の手続きであり、政府の合意に基づく基地建設自体を問題にしてはいない（政治問題ではない）、故に原告適格を認めたのだ。

この判決により二つの展望が開けている。勿論一つは、地裁において、国防総省が同法を遵守してきたかが実質的に審議されることである。工事差し止めの可能性も少なからずあると言えよう。二つ目は、ジュゴン訴訟から派生した米国歴史保存諮問委員会や海洋哺乳類委員会の回路を通して、国防総省にジュゴンの保護を求めることだ。これは裁判と並行して原告ではない NGO でも特組めるであろう。

沖縄のジュゴンは確認されていた3頭のうち1頭が消息不明という危機的状況だ。この状況を米国の裁判や行政機関でどのように訴え、ジュゴン保護や基地建設阻止の動きに繋げるのか。私たち NGO の力が試されている。

(沖縄 吉川秀樹)



ジュゴン訴訟差し戻しを命じる記事(8/23)
上: 沖縄タイムス 右: 琉球新報



ジュゴン訴訟勝利は、オール沖縄方米団が米滞在中にもたらされました。写真は、生物多様性センターOakland 事務所。バナーは高江の皆さんが作成。「米軍はやんばるの森の世界遺産登録を邪魔するな！」

コラム

稲嶺名護市長3期目を実現しよう



名護市長選挙の投票日が来年2月4日投開票（告示は1月28日）と決まりました。稲嶺市長は「あらゆる権限や手段を行使し、翁長知事と力を合わせて断固阻止し、この問題に終止符を打つ覚悟だ」と8月末に出馬表明しました。相手候補は次々と変わり、自民党系市議会会派の代表が出馬表明していますが、自民党本部は「勝てる候補を」と承認していません。しかし、相手候補は9月10日に決起集会を開き、選挙争点の辺野古基地建設について「イエス、ノーは言えない」とし、「名護市には30億ほどの基金がある。住民の福祉サービスや環境整備に使うべきだ」と稲嶺市長の行政運営を批判

しています。これは実態に合わない批判です。稲嶺市長は防衛省からの再編交付金がストップされた中で、ひも付きでない収入や市の税収増で前市長時代の予算規模よりも約100億円多い382億円を2017年度予算に計上しています。そして、中学卒業までの入院医療費や通院医療費の助成などを実施、小中学校へのクーラー設置、トイレの洋式化、耐震化率100%、待機児童ゼロなど実現してきています。オール沖縄の要であり、来年11月知事選挙への前哨戦でもある名護市長選挙で稲嶺市長の3選を実現しましょう。

（事務局 蛭川義章）

沖縄県は9・3シンポの確認5項目を実行すべきです！



9・3シンポジウムの翌日の9月4日（月）、シンポジウムで確認した「沖縄県知事への要請」（別掲）を沖縄県に提出。真の世界自然遺産実現を求める市民の声をユネスコ/IUCN 調査団にとどけることを求めました。その際、自然保護課長から「しっかり受け止め、上司に報告する」との回答をいただきました。

しかし、9月7日付で共同通信が「沖縄県は6月に『世界遺産調査とは別に新基地建設埋め立ての問題点を理解してもらうために調査・議論してほしい』とIUCNに伝えた」と配信しました。翌8日には沖縄タイムス、琉球新報が同趣旨の記事を掲載。すなわち、IUCN本部（世界遺産調査部長）が沖縄県への返書（5月）で申し出た「昨年のハワイ会議での外来種対策決議をふまえて、辺野古の埋め立て土砂問題対策に協力する」に、沖縄県が

断っているのです。日本政府の「世界自然遺産登録至上主義」のお先棒を担っているのです。9月20日沖縄県と再交渉します。

（事務局 蛭川義章）



9/4 「沖縄県知事への要請文」を提出しました

「沖縄県知事への要請」

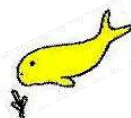
1. 世界自然遺産推薦地域を保全する十分な緩衝地帯を設定すること
2. 世界遺産の「完全性」を担保するために、管理計画の対象に「北部訓練場」を含めること
3. オスプレイの訓練を中止し、配備を撤回すべきこと
4. 辺野古・大浦湾を視察地に含めること
5. IUCN 第6回世界自然保護会議で採択された決議「島しょ生態系への外来種侵入経路管理強化」をふまえて、辺野古・大浦湾の埋め立て土砂の外来種対策に取り組むこと



9.3 シンポジウムで、「沖縄県知事への要請文」を読み上げ、参加で全員で確認しました。

9・3 シンポジウムと海勢頭豊コンサート

『やんばるの森と辺野古の海を守ろう』を終えて



2018 年世界自然遺産登録に向け、ユネスコの委託で IUCN（国際自然保護連合）が、やんばるの森の調査に沖縄に来ます。このチャンスを活かそうと実行委員会を立ち上げ、那覇でシンポを開催しました。直前の米沖縄ジュゴン訴訟差し戻し判決というグッドニュースを受けて、当日はウンケー（旧盆の初日）にもかかわらず、250 名の参加者で盛会となりました。稲嶺名護市長の挨拶で始まり、基調講演は桜井国俊さん「辺野古・高江の基地建設と世界自然遺産は両立するのか？」吉川秀樹さん「4 度の IUCN 決議とジュゴン保護」で、それを受けて真喜志好一さんコーディネートでディスカッション。そして、SDCC 代表の海勢頭豊コンサート。『新しい提案がたくさんあり元気をもらった』『〇〇島ぐるみで頑張ってますよ』という声、現場や各地での取り組みとつながり、熱気を感じるシンポになりました。2000 年アンマンから始まった IUCN 世界大会への参加、SDCC はタイ、パルセロナ、濟州島、ハワイと参加を続け、市民の声で国際社会を動かしています！国際社会と連帯して日米政府を正していく新しい展望が開けています。（関西 池側恵美子）



真喜志好一さん



桜井国俊さん



吉川秀樹さん



真喜志好一さんの司会で、パネルディスカッションをしました

パネルディスカッション概要

市民が「オスプレイ中止を」米軍に要求しよう ～ジュゴン訴訟から学んで

真喜志好一さんの司会でパネルディスカッションを行いました。

桜井国俊さんより、北部訓練場とオスプレイの訓練に関して、ユネスコ/IUCN への働きかけを強める必要性が強調されました。

「ヤンバルの自然遺産登録申請範囲の左側にはバッファゾーンがある。しかし右側にはない。そこは米軍北部訓練場。米軍自身はその自然環境に関して、環境管理基準（JEGS）にもとづき調査を行い詳細なレポートも作っている。しかし環境省は北部訓練場に関して一切触れてないし、沖縄県のパンフレットにも北部訓練場は触れていない。米軍にも働きかけ、北部訓練場の自然環境とオスプレイ訓練の影響に関して明らかにさせるべき。世界自然遺産条約は指定地域を一体的に保全するため国境を越えて適用される。北部訓練場の管理権が米軍にあっても、米軍にもバッファゾーンの管理に関する責任が問われる。」— 桜井さん

吉川秀樹さんも北部演習場を無視した不完全な情報しかユネスコ/IUCN に届いていないことに危惧を表明しました。

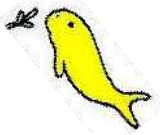
「県や国にも正しい情報をユネスコ/IUCN に伝えるよう要請しているが、未だ動いていない。このままでは後

から IUCN に責任を問われる。国頭村や東村、大宜味村など関連する自治体でも情報を伝える準備をすぐにするべき。4 月に環境省と交渉した際、環境省の担当者は、『なぜ北部訓練場に言及しないのか？』という問いに、—『日本の管轄権のおよばない米軍演習場だから。』—と返答した。しかしすでに桜井さんが触れたように、世界自然遺産条約は国境を越えて適用される。米軍は情報を持っているのだから開示させる。そしてバッファゾーンの要件を満たすよう、オスプレイ訓練の中止やオスプレイパッドの撤去などを市民が先頭になって要求していくことが大切。」（吉川さん）

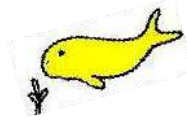
会場から「大宜味村で、これまで見られなかったヤンバルクイナが目撃されている。オスプレイ訓練との関係は？」と質問が出ました。

「オスプレイ訓練が、ヤンバルクイナ、ノグチゲラに影響を与えていると考えられます。すでに5羽のノグチゲラがオスプレイへのバードストライクで死んでいます。ノグチゲラは総数300羽程度と推測されているので、相当な数です。」（桜井さん）

続いて、ノグチゲラもジュゴンと同じくアメリカ国家歴史保存法（NHPA）の対象となる。訴訟をおこすかどうかに関わらず、米軍に保全を要求していけることなどが指摘されました。（関西 松島洋介）



9・3シンポ 各来賓挨拶要旨



～ 決意を新たにがんばろう！～

～稲嶺名護市長あいさつ～

稲嶺市長は始めに、「IUCN 総会にて SDCC と共に辺野古の海を守ろうと訴え多くの支持を得た」と述べ、「政府が勧告・決議を一向に実行しないのはとんでもないこと」と批判しました。そして、「近く沖縄に来る IUCN 調査団に、森と海は繋がっていること等強く訴えていこう。我々が頑張ることでしか守れない」と私たちに強く呼びかけました。



稲嶺進名護市長

～ 国際社会にさらに訴えよう！～

～安次富浩さんあいさつ～

昨年 IUCN ハワイ会議に参加されたヘリ基地反対協共同代表・安次富浩さんは、「各地の自然遺産登録された場



安次富浩さん

所の近くに軍事基地があるところはない。今秋 IUCN 調査団が来沖の際には、現在の沖縄の実態、矛盾を明らかにすることが必要」と。

そしてオール沖縄がドイツのショーン・マクブライド平和賞を受賞し、米ジュゴン訴訟控訴審判決の1審差戻を受けて、「20年に渡るウチナンチュウの非暴力の戦いが評価された。徐々に国際社会に知られるようになり、これからの戦いへの大きな支援となる」と話されました。

「国際社会にさらに訴えて絶対に辺野古に新基地は作らせない、沖縄の豊かな森、海を後世に繋いでいく戦いをこれからも皆さんと一緒に作り上げていきたい」と訴えました。

(首都圏 小安深幸)

また、「今回のジュゴン訴訟の判決が大きな勇気と自信を与えてくれた。オール沖縄と翁長知事を支えるため、来年の市長選に必ず勝利する」と誓い、「先祖から受け継いだ歴史や資源を未来世代に繋ぐため、権力に臆することなく頑張っていく」と締めくくり、力強い意表明になりました。

(首都圏 蟹江由美子)



海勢頭豊コンサート

やんばるをテーマに「ザンの海」「椎の川」「喜瀬武原(きせんばる)」など6曲を演奏。参加者は大いに元気づけられました。

特別報告 ～「IUCN 事務局長からの返書について」

～ 協力的な IUCN を無視する政府 ～

～東恩納琢磨さん～

名護市議会議員の東恩納琢磨さんから IUCN からの返書について次の報告をしました。

名護市議会は4度のIUCN 勧告、決議を踏まえ、辺野古新基地建設にかかわる日本政府が行った環境アセスの検証を IUCN に求める決議書を IUCN 本部に送付したのに対し、本部から「日本政府から要請があれば専門的な知識を提供できる」との内容の返事が届きました。

そこで市議会は、政府に対し IUCN に協力要請することを求める決議を提出し回答を求めるため、うりずんの会と

政府交渉を行いました。

外務省は「これは環境省の管轄である」、環境省は「防衛省の管轄である」、防衛省は「ジュゴン保護、外来種対策は適切に行っている。IUCN への協力依頼は必要ない」と無視している状況がわかりました。

(首都圏 矢敷克子)



沖 縄

8月12日沖縄県民大会で「オール沖縄一丸となった」

「翁長知事を支え、辺野古の新基地をつくらせない8・12県民大会」がオール沖縄会議主催で、那覇市奥武山陸上競技場で開かれました。真夏の炎天下、4万5千人が「新基地NO」「我々はあきらめない」のブルーのステッカーを掲げ、翁長知事を支え切る参加者の決意を明らかにしました。また、昨年12月名護市安部沿岸での墜落事故、今月5日オーストラリア東海岸での墜落事故（3人死亡）など欠陥機オスプレイの飛行全面禁止、自衛隊によるオスプレイ導入撤回を要求する特別決議も採択されました。

岩礁破碎差し止め訴訟と仮処分申し立ての審理が10月以降に進められようとする中、工事を止めるためにも「埋め立て承認の早期撤回」を沖縄県に求める声が高まっています。また、宮古市長選挙や浦添市長選挙での敗北で、オール沖縄の団結の緩みが指摘されていました。しかし、炎天下での4万5千人の参加が、翁長知事に「工事を強硬に押し進める状況は、必ず埋め立て承認撤回につながって

いく。撤回の時期を私の責任で決断する」との決意を明らかにさせました。オール沖縄共同代表の稲嶺名護市長は「我々が力を合わせて翁長知事を支え、要である地元名護市が頑張らなければ、皆の期待にもこたえられない」と来年1月の市長選挙を闘う決意を明らかにしました。

政府・防衛省は新基地建設工事で海上作業ヤードの設置を取りやめるとともに、新たに19か所の海上ボーリング調査を計画しています。しかし、護岸工事の実施設計協議が終わっていないから、K9護岸工事などが進んでいません。この上、新たな海上ヤードを検討すれば沖縄県との設計変更を避けて通ることはできません。埋め立て承認の留意事項に反するからです。政府防衛省は1月名護市長選挙、11月沖縄県知事選挙に全力をあげて取り組む以外に、新基地建設の工事を進めることができません。1月名護市長選挙をオール沖縄の力で勝利しましょう。

（事務局 蛸川義章）

県民大会に参加して

翁長知事を支え辺野古に新基地を造らせない『県民大会』へ本部町島ぐるみ会議でチャーターした大型バスで参加。中には盆休みで本部を訪れていた県外からの参加者も。

灼熱の太陽がじりじりと照りつける下、少し出足が悪いかと思いつつ開会を待つ。しかし、発言者や翁長知事が舞台上に登壇するころには、続々と集まってきた県民はフィールドを埋め尽くすまでに。暑さを逃れて木立の陰にはさらに多くの県民の姿が。その数45,000名を数えました。

やはり沖縄の民意を圧殺し、法解釈を捻じ曲げ、手続きを全く無視し新基地建設を強行する政府に対する、そして沖縄においては、墜落を繰り返すオスプレイの訓練を強行する米軍とそれを黙認する安倍政権に対する怒りは県民を奥武山競技場へと向かわせたのです。

夏休みの子どもの姿も多く、子ども達の未来のためにも負けれないと、熱い暑い思いに燃える集会でした。



壇上に立ち挨拶をする翁長知事

この県民の思い、是非辺野古ゲート前へと繋げたい。

おしい、おばあも会場と駐車場の長い道のりを頑張りました。本当に暑い中ご苦労様でした。

（沖縄 高垣喜三）

東 京

「翁長知事を支え、辺野古に新基地を造らせない沖縄県民大会」に呼応する8/12首都圏行動

8/12沖縄県民大会に呼応する首都圏行動が東池袋中央公園で行われました。

前日までの天気予報では「雨」ということでしたが、当日は、時々陽もさして薄曇りのデモ日和。

主催者挨拶は、「昨年12月に、オスプレイが落ちた。そして、今度はオーストラリアでも墜落した。3人も死亡している。それなのに、日本政府はオスプレイ飛んでもいいよと米軍にお墨付きを与えてしまった。沖縄は無法地帯のように、オスプレイの訓練が繰り返されている。心からの怒りを入れて日本政府に抗議しよう。翁長知事を支えて行こう」と、力強く呼びかけました。

デモは、「辺野古の埋め立てを今すぐやめろ!」「普天間は今すぐ閉鎖しろ」「サンゴを殺すな、ジュゴンを殺すな」「政府は知事の権限を取り上げるな」などと、シュプレヒコールを上げながら、夏休みで賑わっているサンシャインシビル周辺で大きくアピールすることが出来ました。

（首都圏 宮城詔子）



山原ザンのあるさと～こらむ・コラム～

8月11日は、「山の日」だった。「海の日」同様、「山」に親しみ、「山」を崇敬するようにと、2年前に公休日になったという。恐らく、神道山岳信仰の美化目的で、安倍自民党政権が仕組んだ旗日に違いない。

でも、折角の「山の日」である。「山」の字の持つ真の歴史的意味を、山原の皆さんと共有しようとの思いから、急遽、映画「GAMA一月桃の花」上映とコンサートを、名護市民会館中ホールで開催した。稲嶺名護市長もご来席頂き、会は成功。

その勢いは、9月3日の那覇市パレット市民劇場「やんばるの森と辺野古の海を守ろうーシンボとコンサート」に向かった。当日、旧盆の迎えにも関わらず、大勢駆けつけてくれた。蜷川さんはじめ、仲間達の並々ならぬ努力のお陰だった。

しかし、近頃の世界遺産ブームで気になるのが、国民の「世界遺産」に対する古代史の無理解である。福岡宗像市にある奴山古墳の「奴」と「山」がなんであるのか？沖ノ島は、何故女人禁制なのか？何も分からぬまま、宗像族の思惑通りに遺産登録決定を喜んでいる。

また、新しく世界遺産への国内候補に上がった、大阪府百舌鳥・古市古墳群にある日本最大の大山古墳、大仙陵だが、世界遺産の推薦書案が「仁徳天皇陵古墳」となっていることで、今、学者間に困惑が広がっている。一体どれが正式名称なのか？このことは、日本の古代史が大和政権によって秘匿されたままであるという、日本人の非科学的歴史認識の恥部となる問題である。

そもそも、鳥取県の名峰大山にあるならまだしも、山のない堺市に、大山とか大仙の名のつく古墳が存在するとは、何ごとか？それが分かれば、この国はまだ救われるというものだ。SDCCメンバーなら、「山」が、沖縄語のザン、サンと読めることから、ジュゴンに関わる字であることを理解できると思う。

何故？琉球王国は中山を中心に、山北、山南の三山の「ザン信仰」を統一してできたのか？そこから、日本史を捉えないと分かるまい。

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC 共同代表）

①んさか通信★ジュゴンの①

その名は、カメジロー

ラジオから「瀬長亀次郎を知っていますか？」と聞こえた。

若い声の司会の女性が「私は恥ずかしながら知りませんでした」と答えていた。

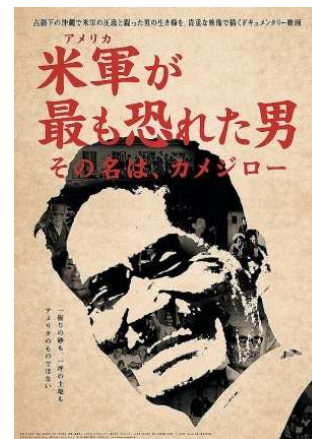
「私も知らないけど…」と耳を傾け聞いてみると8月26日から上映する映画の話をしていた。

アメリカの占領下の沖縄で米軍に挑んだ男、瀬長亀次郎。なぜ沖縄の人々は声を上げ続けるのか、その原点はカメジローにあった、と。

そこで聞いた生き様を知れば、今のオール沖縄の戦いが地続きであることがわかる。

監督はNEW23でキャスターを務めていた佐古忠彦さん。

取材を重ねるうちにこの沖縄の現状を伝えないと！と思



われたのだろうか？元琉球朝日放送のアナウンサーで「風かたか」など映画監督として活躍中の三上智恵さんを出した。

監督の思いが詰まった映画を早速観に行った。

観客の年齢層は高かった。上映後に拍手が起ったのがとても印象的だった。

那覇の桜坂劇場での観客数は9月17日現在で1万人になったそうだ。（沖縄・小平）

《 今後のスケジュール 》

<首都圏>

- ・10/4(水)「翁長知事を支援し辺野古新基地建設を許さない集会」
18時半～ 日比谷野外音楽堂
- ・10/14(土)「ピースフェスティバル 2017in 大和・綾瀬」
10時～15時 駅東側プロムナード
- ・10/28(土) 団結まつり前夜祭 19時～21時
大田区入新井集会室
- ・10/29(日) 団結まつり 11時～15時 亀戸中央公園

<関西>

- ・10/19(木)じゅごん茶話会 14時～ 関西事務所
- ・10/21(土)「標的の島 風かたか」上映+三上智恵監督講演
とよなかすてつぷ 上映 14:00～ / 講演 16:30～ / 上映 18:30～
- ・11/3(金・休)9条改憲を許さない おおさか総がかり集会
14時～ 中之島公園芝生広場(剣先広場)
- ・11/5(日)団結まつり 11時～15時 毛馬桜ノ宮公園
- ・11/18(土)・19(日) 大阪自然史 フェスティバル 2017
9時半～16時半 大阪市立自然史博物館

辺野古・高江の基地建設と世界自然遺産は両立するのか？(仮題)

講師：桜井国俊さん(沖縄大学名誉教授)

11月12日(日) 14時～16時半 13時半開場

場所：エル大阪会議室 708

主催：STOP! 辺野古新基地建設! 大阪アクション

資料代 未定

ドキュメンタリー映画「美ら海を未来へ」上映会

監督：中井信介 71分

11月4日(土) 上映①13:00～ / 上映②15:20～

会場：日本基督教団 吹田教会(阪急吹田駅下車すぐ)

「美ら海を未来へ」上映実行委員会 in すいた

参加費：500円

下記日程でミーティングをします。

どうぞお気軽に、のぞきにきてください。

首都圏ミーティング(10月)

10月13日(金)、26日(木) 19時～ 首都圏事務所

関西ミーティング

毎週火曜日 19時～ 関西事務所

めぐろ平和のつどい実行委員会から

届きました!

先日「めぐろ・平和のつどい2017」実行委員から、署名とカンパを送っていただきました。同封されていた実行委員の佐藤さんからのメッセージを紹介いたします。(以下抜粋)

先月26日、OKINAWAに連帯する「めぐろ平和のつどい」を開催しました。・・・「ジュゴン保護キャンペーンセンター」の署名は、大勢がその場で書いたり、用紙を持ち帰ったりしたので、順次事務局に送付します。・・・毎月のように沖縄通いをしている人、初めておきなわの歴史や現在を知った人と、様々な人々が集う会でした。これからも地道に、でも途切れることなく、沖縄とともに基地のない日本、戦争のない世界を目指して歩んでいきたいです。

署名にご協力を!



『沖縄のジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナを守ろう』

11月15日の署名締め切りに向けて、署名集めのラストスパートに入っています。現在6000筆ほどと、目標の2万筆にはまだまだです。スタッフもがんばって集めています。皆さまもどうぞ広げてください! ご協力よろしくお願いします。



「いのちの海 辺野古 大浦湾」が完成しました!

大好評だった「いのちの森 高江」に続いて、新基地建設が進む辺野古・大浦湾と周辺で暮らす人々の生活や思いを追ったドキュメンタリー映画「いのちの海 辺野古 大浦湾」が完成、販売されています。

監督：謝名元慶福 ナレーション：佐々木愛 <2017年/71分>

*上映権付きDVD 1枚2000円です。お申し込み、お問い合わせは下記へ。

新基地建設反対名護共同センター

電話0980-54-8555 FAX0980-54-8556

Eメール nago.kyodoc@bird.ocn.ne.jp

ジュゴンちゃんぶるニュース VOL. 94 2017年9月26日発行

ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)

〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1

第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377

○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp

(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302

TEL/FAX 06-6353-0514

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:

加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター

口座番号 00140-9-660199

他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 ○○八支店

口座番号 普通 8159084

ちゃんぶるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします

お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!